

SAG法(スモールアンプリコンを用いたジェノタイピング)

SAG法は50~100bpの短いアンプリコンの高分解融解曲線からジェノタイピングを行なう方法です。プローブが不要で、簡単・迅速・経済的でありながらプローブ法に匹敵する精度でジェノタイピングが出来ます。

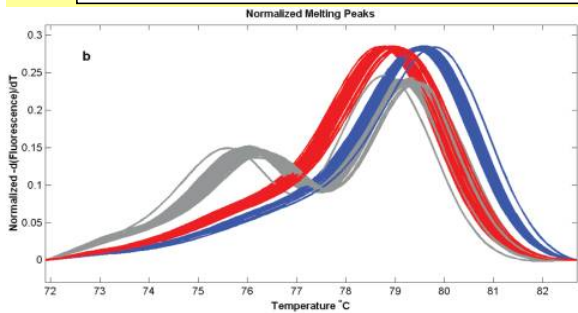
短いアンプリコンを用いるSAG法は優れた感度・特異性を示します。特にヒトのSNPの85%を占めるクラスⅠ、クラスⅡの(A>C、A>G、T>C、T>G)のジェノタイピングに非常に有効です。SNPがA>T置換のように2本鎖間で塩基が置換する組み合わせに変化が無い場合、ホモ接合AAとTTの融解曲線の差は小さく、時にアレルの特定が困難なことがあります。

LightScanner高感度ジェノタイピング・マスターミックスを使うと、この問題を解決できます。

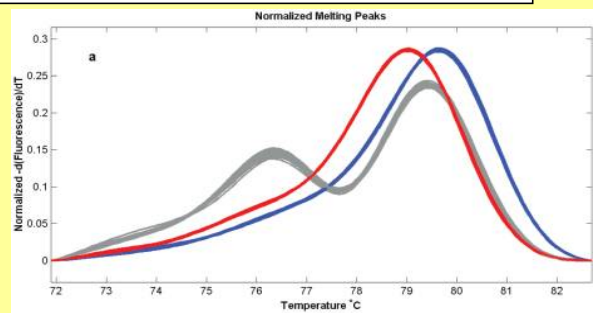
マスターミックスは温度キャリブレーターが添加しており、器械および反応系に起因する各検体の僅かなブレが補正できます。そのため融解温度の差が0.5℃未満のクラスⅢ、クラスⅣのSNPも正確にジェノタイピングすることができます。

短いアンプリコン(50~100bp)の高分解融解曲線を得るために、プライマーを目的のSNPのすぐ近傍に設計します。
フォワードプライマー → N ← リバースプライマー

*クラスⅠ：C/T、G/A間の置換、クラスⅡ：C/A、G/T間の置換、クラスⅢ：C/G間の置換、クラスⅣ：A/T間の置換



温度キャリブレーター補正なし



温度キャリブレーター補正あり

SAG法ではマルチプレックスPCRにより3つのフラグメントを同時にジェノタイピングすることも可能です。ホモ接合は1つのピークに、ヘテロ接合はブロードな2つのピークになります。

専用蛍光試薬とマスターミックス



LCGreen^{Plus}

LightScannerによるマイクロプレートを用いたハイスループット解析のために至適化されています。

10mM Tris-HCl, pH7.4 (0.1 mM EDTA を含む)に使用時の10倍濃度(10X)になるよう溶解してあります。PCR反応液9に対して10X溶液を1加えます。
保存：未開封の試薬は-20℃
開封後：溶解した試薬は4℃で保存(溶解後は2ヶ月以内に使用します。)



LightScanner Master Mix

高いPCR効率と特異性が得られるように調整されています。

ホットスタート酵素、dNTP、LCGreen^{Plus}を含む2.5X溶液です。プライマー+DNA溶液6に対して2.5X溶液を4加えます。
保存：未開封の試薬は-20℃で保存
開封後：溶解した試薬は4℃で保存(溶解後は2ヶ月以内に使用します。)



Genotyping Master Mix

シンプルプローブに対応した新しいタイプのマスターミックス

酵素、dNTP、UTP、BSAを含む2.5X溶液です。プライマー+DNA溶液6に対して2.5X溶液を4加えます。
保存：未開封の試薬は-20℃で保存
開封後：溶解した試薬は4℃で保存(溶解後は2週間以内に使用します。)



LightScanner High Sensitivity Genotyping Master Mix

キャリブレーションによってホモ接合変異も明確に判別

ホットスタート酵素、dNTP、LCGreen^{Plus}を含む2.5X溶液です。プライマー+DNA溶液6に対して2.5X溶液を4加えます。
保存：未開封の試薬は-20℃で保存
開封後：溶解した試薬は4℃で保存(溶解後は2週間以内に使用します。)



Genotyping (ワルファリン ターゲット) 研究用

ワルファリンは血栓塞栓治療に広く処方される内服の抗血液凝固剤です。ワルファリンは時に重篤な出血性の副作用を招く恐れがあり、患者の薬剤感受性に合わせた投薬量の管理が重要です。

CYP2C9*2、CYP2C9*3およびVKORC1遺伝子型判定は、ワルファリンの適正投与量を決定するために有用であることが明らかにされています。アイダホ社のワルファリン遺伝子型分類試薬はアイダホ社の特許技術SimpleProbe採用、融解温度により判定します。



輸入・総発売元
株式会社 J.K.I.インターナショナル
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-9-23 SVAX新宿ビル
TEL.03-5362-2907(代) FAX.03-5362-7079
E-mail:info@jki.co.jp URL:http://www.jki.co.jp